三笠産業ニュース

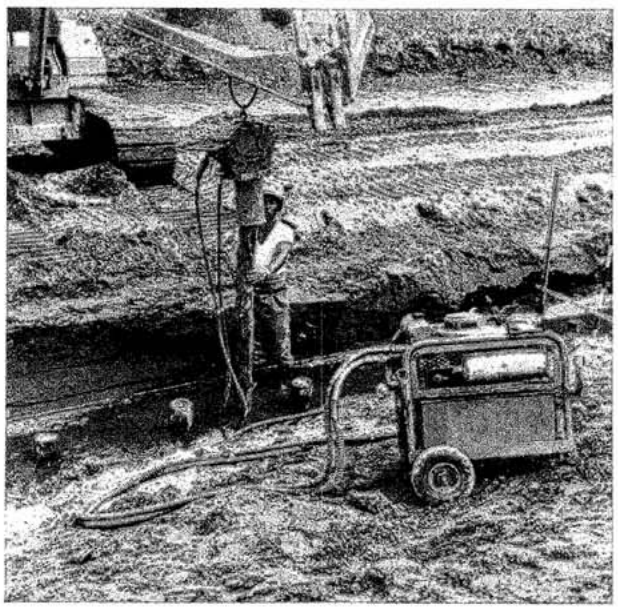
発行所
東京都千代田区猿楽町 1-4-3
三笠産業株式會社
電話 東京03(292)1411 大代表
テレックス 222〜4607
郵便番号 101 番
PR旬報　年4回発行

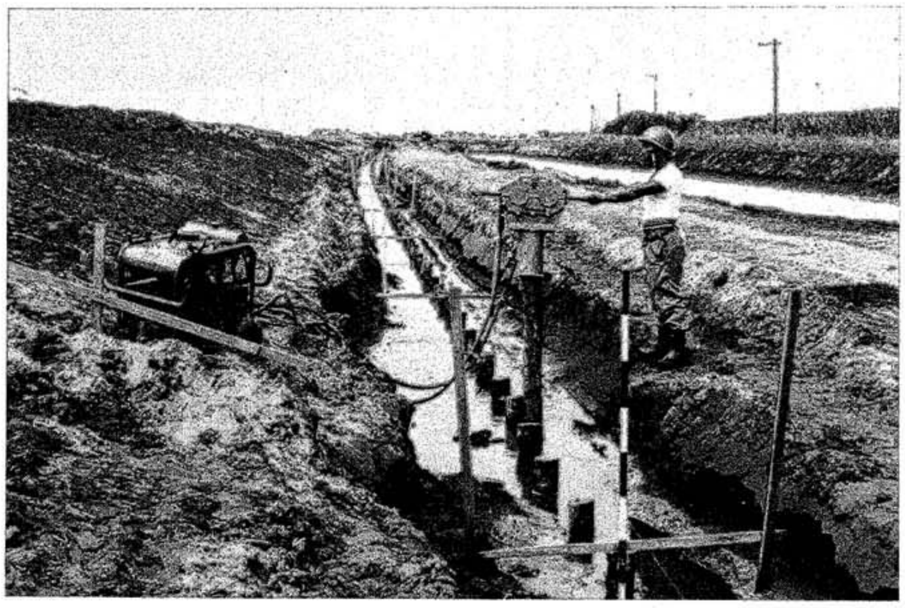
MOH-8型
油圧式パイルハンマー作業実況

先に発表した油圧式パイルハンマーを広島、札幌、東京と各展示会場に出品し、その性能及び作業性をいかんなく発揮して好評を得て以来、各方面から注目を受け使用実績も逐次増大しつつあります。これは今までこの種の小型杭打機は兎角故障の多い点、又小型にしては多人数で作業しなければならない点、力が弱すぎる点等多くの難点があって作業能率が余り芳しくなかったようでしたが、それ等の欠点を補って、新たに開発されたのが、この油圧式パイルハンマーなのです。

そこで本紙を通じ活躍する油圧式パイルハンマーの実状を紹介して、今後のご使用上の御参考に供したいと思います。現場は茨城県の水郷国定公園内の高浜築堤工事で使用されているもので、長さ四米の松丸太を打ち込んでいるわけです。この工事は佐原市大島・根本工務店様の請負で建設省の設計のもとに行なわれているもので、杭打仕様にはモンケン打ということであったが、作業能率を考え是非弊社の油圧式パイルハンマーを使用させてほしいと建設省に申し入れて、係官立会いにて試験を行ない了解を取りつけたものです。

当現場ではパイルハンマーで一日一〇〇乃至一五〇本の丸太打込みを行なっており、一本約五分から七分位で四米を打込むことが出来ました。杭も径が先（末口）一二糎で元が一六糎から一七糎位の曲りがなく平均した径のものでなくてはならない。先が曲がって入らない様に三面を削り、丸太の皮を剥いだものでこれらを建設省の係官が一本一本検査を行なうわけです。この様に検査を受けた杭も一気に強い力で元まで打込んで、その上にコンクリートを打設しても、ある時期が来ると杭がコンクリートの重みで沈む為、コンクリートが割れてしまうので基礎杭としての役目をなさないゆえにこれを満足させるためにパイルハンマーを使用したわけです。即ちパイルハンマーは杭に適当な振幅と振動加速度を与えることによって、杭の周りの土の状態を変化させて、周辺の摩擦力を軽減させるとともに杭及び装置自体の自重と振動力による連続的な荷重によって先端の抵抗を排除して地中に貫入するものですから、杭の支持力を増し、基礎としての杭打ちが出来るわけです。





根本工務店、根本社長談「この水郷地帯は護岸工事が非常に多く年間を通して相当量の工事があるが、四米位を打つ良い杭打機がなかった。この三笠のパイルハンマーを使い、五日で五百本の杭を打って見て、その作業性と高性能に驚いた。このパイルハンマーは相当出ますよ」と云う御言葉を戴いた。

最後にこの取材に当り御協力を戴いた根本工務店の皆様に厚く御礼申し上げます。

振動体の寸法

高さ	四二五㎜
横巾	一、〇五〇㎜
厚さ	二七〇㎜
重量	七二・八kg
衝撃数	一、〇〇〇〜一、一〇〇V・P・M

14回 西部地区 三笠代理店会 開催

十月六日〜七日　大阪大閣園にて

西部地区総発売元、三笠建設機械(株)ではメーカーである三笠産業との共催で十月六日〜七日の二日間に亘って大阪に於いて西部地区三笠代理店会を開催した。地元三笠建機側からは小野社長、小野常務を始め安部部長以下幹部社員から女子社員まで一同会場の準備やお客さまの応援に張り切れば、東京三笠産業からは社長代理の京谷専務を始め、吉田常務、小林、長谷川両工場長、鯉沼西販課長、長畑西販主任と幹部が総出動してこれ又年に一度の三笠の祭典を前に、新製品の展示、実演、運転の事前準備にこれ又大童わの活躍、幸い第一日目の六日は前日来の曇天を吹き飛ばした秋晴れの晴天に恵まれ関係者の日頃の努力が見事開花した感があった。まず午前十一時に都島「大閣園」に参集願い、十一時より十二時までは大閣園の庭にて展示会を行ない、ここで本年度新製品のMDR—11型ダブルバイブレーションローラー及びMOH—8型パイルハンマーをはじめ主力製品のパイブレーター、タンピングランマー、コンパクター等の実演を行なった。お集りの代理店各位に於かれましては各々機械を手にして実際にこれを動かして見ながら三笠の機械についてディスカッションとオピニオンをいただいた。昼食後会議室にて引き続き懇談会が行なわれた。まず三笠建設機械小野社長が挨拶を行なった。その中で昨日よりの雨模様が本日かくも晴天に恵まれた事は主催者側の三笠の日頃のしょうじんが良かったのではなく、それよりも私としては代理店各位のごしょうじんのお蔭であり、そして御来賓の皆様の日頃変らぬ御愛顧の賜ものと感謝に耐えません。関西も万博を機に景気がダウン気味で全く楽観は許されませんが、政府としても公共施設投資、金融緩和の傾向にあり、建設業は公共事業とは切り離せない関係にある事から、ポスト万博ショックはそんなに深刻なものではないと思っております。どうか皆様、現代の省力化に協力をお願いする意味で、この上とも我社への御協力の程伏してお願い致します。ここで特におことわりしなくてはならない事は、メーカー三笠産業京谷社長が病気の為出席出来なかった事をお許し下さいとの挨拶があった。次にメーカー三笠産業より京谷専務が挨拶に立ち、社長の欠席をわび、日頃は総発売元三笠建機の精力的な営業活動におまかせして直接にメーカーと西部地区代理店との交流が頻繁に行なわれてはいないが、この代理店会のような良き機会をとらえて充分に意見の交換と親睦を深めたいと思う、それにつけても、先づメーカー三笠産業の近況などをこの席を借りて、御報告申し上げますと、最初に新製品の開発並びに発売状況とそれに伴なって代理店各位の積極的なこれ等新製品に対する絶大なるご援助をお願いし、次いで生産力の拡充と併せて生産の合理化を計るための新工場建設に着手したことを述べられ、この新工場は、敷地約一八、〇〇〇平方米、建物は工場、倉庫、事務所、食堂等最新の設備を取入れて設計し、総建棟約四、六〇〇平方米に及ぶものであり、これが完成の暁には、従来ともすれば需要の最盛期に於いて不足をきたし、代理店やユーザーの方々にご迷惑をお掛けしてきたようなことは解消し、充分に皆様にご満足して頂けるものと確信する、生産力拡大の決意を被歴し次いで輸出も順調に伸びており毎年通産省より輸出貢献企業として表彰されている旨を報告し、海外代理店も三十カ国に及んでいるので近い将来には、世界三笠代理店開催も夢ではないと結び、終りに今後共変らぬご愛顧ご引立をお願いし御来席代理店とものご繁栄をはかりたいとの挨拶があった。

引き続き吉田技術部長により新製品の図面による説明が行なわれ、その質疑応答の中でパイルハンマーに於て、その能力が従来の抗打機のどの様な力を持ったものに匹敵するか?又はダブルバイブレーションローラーは他メーカーより後発となるが、後発なりのメリットはどこにあるかなど積極的な意見をいただいた。又特別発言として中道機械中道社長より三笠建機のセールスの方が他メーカーではめったに販売応援に来ていただけないのに高知県中村市の出張所まで毎月来ていただける事に大変感激しているとの言葉をいただいた。そして午後三時よりゼミナールとして経済評論家で、ラジオ、テレビで活躍中の斉藤栄三郎先生より「これからの景気見透しと企業の繁栄策」と題して一時間二〇分に亘って講演を聞いた。その中で一、労働力の問題、二、インフレ抑止について、三、金融面の問題と傾向、四、日米交渉今後の見通し等について論説があり、その結論としてこれからの企業は自己資本を持て、労使の協力をより密にせよ。それに、まず尊敬される個人となる事、公害を恐れず、防止を行ないながら産業は発展させなくてはならないと結んだ。第一会場となった「大閣園」は故藤田男爵の邸宅として今から五十余年前に築造された大阪屈指の豪邸で、先の戦災で一部が焼出しましたが、幸い災厄を免れた東邸と豪壮華麗な庭園とを中心として都心とは思えない静けさと落着きを生かして迎賓館として復活させたもので、その建物のたたずまいの優雅なこと庭園の広大なことは、お集まり代理店の人々の賛歎のまとであった。ゼミナール終了後この「大閣園」より大阪南「大和屋」に席を移し、懇親会に入った。懇親会に先立ち、福岡和田機工(株)和田社長殿より三笠代理店会と一緒に和田機工も歩んでいるが、年々そのスケールも大きくなり、三笠建機の発展を目の当りに見る思いである。今回の代理店会の盛会をお祝い申し上げるとの祝辞をいただき、続いて報道関係から日刊建設新聞社中山社長殿より、三笠建機の社員一同端目で見て非常に勤勉である。代理店の方も益々協力を押しまないで下さいと激励のメッセージをもらい、なお同様なお言葉を取引銀行の三菱銀行大阪西支店田島支店長殿よりもいただき、本村金物(株)の本村社長の音頭で、一同代理店会の前途を祝し合って乾杯し祝宴に入った。やがて酒杯の進むほどに、浪花美妓連の踊りにすっかり酔いも廻わり、何時ものお国自慢が飛び出して互に唄い興ずる人あるいは久々の顔合わせに膝つき合わせて語り合う人なぞ、和気あいあいたる秋の夜はいつ果てるとも見えなかった。

今回の代理店会は展示会、懇談会を「大閣園」で行ない、懇親会を「大和屋」という大阪ならではの名所で開催され、御参集の皆様より三笠建機の温い心が感じられたとのお褒めをいただけた事に筆者も感激した。お泊りは高層ホテルプラザ（大淀）にて休んでいただいた。

翌七日は御有志参加の親善ゴルフ大会と参加されないお方とに別れての行動であった。ゴルフの方は京都田辺カントリークラブで行なわれ、中道機械九州本部松田本部長が優勝された。こうして二日間にわたる代理店会は晴天に恵まれ、代理店、報道関係、取引銀行等各方面から御参集を仰ぎ、本年も盛会裡に終了した。

当日の参加代理店次の通り。

(株)森谷商会（長崎）　金剛株式会社(熊本)　大安産業株式会社(宮崎)　(株)大鉄鋼機商会(佐賀)　田中商事株式会社(大分)　和田機工株式会社(福岡)　中道機械産業(株)九州本部（福岡）　(有)河上金物店（富山）　丸三開発工機株式会社(富山)　(株)白沢商店(福井)　原田金物株式会社(松江)　本村金物株式会社(安来)　三洋株式会社(鳥取)　愛媛ヤンマー販売(株)(松山)　南海ヤンマージーゼル販売(株)(高知)　(株)蔵本商店(徳島)　杉上建機株式会社(高松)　宝物産株式会社(広島)　(株)前島商店(岡山)　(株)広田機械製作所(名古屋)　(株)山田孝光商店(名古屋)　大垣機工株式会社(大垣)　十星商事株式会社(岐阜)　中善産業機械株式会社(大津)　芦田商事株式会社(福知山)　高石機械産業株式会社（京都）　関西建設機械株式会社(神戸)　太紀商会(和歌山)　(株)中道機械（大阪）　日工商事株式会社(大阪)　山中産業株式会社(大阪)　(株)ヒシヒラ(大阪)　(株)オノマシン(大阪)

(銀行関係)　三菱銀行大阪西支店

(報道関係)　日刊建設新聞社　日刊建設産業新聞社　日刊建設工業新聞社　日刊建設通信新社　商工経済新聞社

—長畑記—

× ×

× ×

（新製品バイブレーションローラーの実演）

（パイルハンマーの実演）

（三笠建機小野社長の挨拶、左の席三笠産業京谷専務）

（講習会風景）

（斎藤栄三郎先生の講演）

（大和屋の懇親会々場にて）

今月号の遅刊に就いて

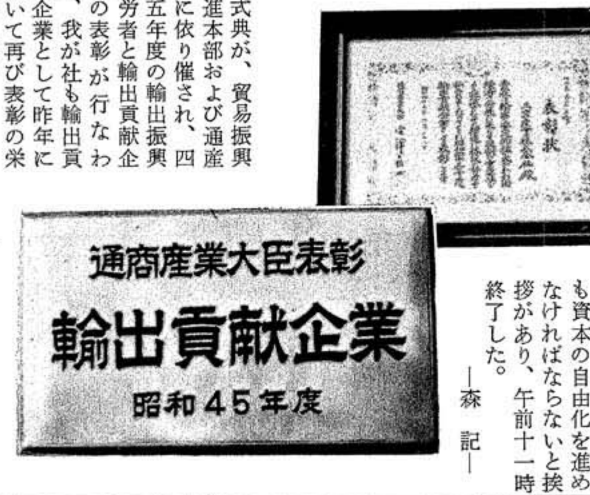
去る十月六日、七日の両日、大阪「大閣園」に於いて開催されました恒例の西部地区三笠代理店会の記事を掲載するため、本紙の発行が十日ほど遅れましたことを深くお詫び致します。

編集部

昭和四十五年度

輸出貢献企業として再び表彰さる

六月二十八日の貿易記念日に先立って二十七日(土)午前十時より日比谷公会堂に於いて第八回貿易記念日の式典が、貿易振興推進本部および通産省に依り催され、四十五年度の輸出振興功労者と輸出貢献企業の表彰が行なわれ、我が社も輸出貢献企業として昨年に続いて再び表彰の栄に浴した。



貿易記念日は昭和三十八年に設定されたもので、安政六年五月二十八日、今から一一〇年余の昔に徳川幕府が横浜、長崎、函館の三港に於いて米、英、仏、露、蘭の五ヵ国と自由に貿易することを許可する旨を布告した日で、現在の太陽暦に直すと六月二十八日に当る。毎年この日を貿易記念日とし、貿易思想の普及、貿易振興貢献者の表彰等が行なわれて来た。

式典は貿易振興推進本部の永野重雄代表理事と、通産相臨時代理の佐藤経企庁長官の挨拶、佐藤首相代理として保利官房長官、船田中、重宗雄三、衆参両院議長の祝辞に続いて、保利官房長官より輸出功労者代表に内閣総理大臣表彰状が授与され、また佐藤通産相代理から輸出貢献企業の代表に表彰状を手渡された。引続き、経済界を代表して植村甲午郎経団連会長、岩佐凱実全国銀行協会連合会々長、稲垣平太郎日本貿易会々長から、国際収支の好調により輸出を軽視する様な考え方をしないで、我が国貿易経済の今後の発展のためにも資本の自由化を進めなければならないと挨拶があり、午前十一時終了した。

—森　記—

三笠製品

韓国主要都市 展示会

自10月21日　至30日

釜山市

九月二十一日午後四時三〇分KAL航空のジェット機が、大阪国際空港を飛び立つと、早やくも一時間程で釜山の街明りを捕らえていた。

税関の検査を終えて到着ロビーに出ると、そこに満面に笑みをたたえた、韓国総代理店、亜新機械(株)李社長さんの姿があった。ホテルに向う車の中で、明日より始まる展示会の展示品の通関が今日の午後六時まで掛ってやっと終ったという話を聞く。

翌朝ホテルを出て展示会場へ向う。韓国第二の都市釜山は人口約二百万を擁し、その発展も早い。新しく出来上った釜山市のメインスティション、新釜山駅周辺は、駅前の広い道路に沿って区画整理が行なわれ、新しいビルが次々と立って行く。その一画、未だビルの立っていない空地を借りて、釜山展示会は二十二、二十三日の二日間にわたり行なわれた。

今回の展示会に出品される三笠製品は、ソウル亜新機械より搬入したもの、亜新機械釜山代理店の新協社さんの在庫品を搬入したものも含め、三十数点にも及んだ。

会場係員は亜新機械(株)より李社長を始め、李営業課長以下四名、釜山代理店の新協社より李社長以下二名、三笠産業より小生一名の計七名である。

早くも十時近くになると通り掛りの見物客で大変な賑わいとなった。この日のために、主催者亜新機械及び新協社の連名で案内状が約三百通発送されていた。中でも最初に見えたお客さんが、早速、軽便型と外部型のバイブレーターを注文され、さいさき良しと一同大いに意を強くした。午前中はやはり新協社のお得意先が多かったが午後になるとお客さんも多くなり、機械の実演にも熱が入った。来場された各建設会社の社長さんや工事責任者の方々は、皆熱心に機械の実演を見て行き、土木工事にかかせない機械であるランマー、コンパクター、バイブレーター等の認識を大いに深められたようだった。

(釜山市の展示会風景)

二日目は、展示会への招待客が早くから見え、馬山市等の遠方から来られた方もあり、会場は昨日に続いて一段と賑ぎわいを増した。午後には各建設協会の事務局長さんを始め、協会加盟の業者の方々が多数来場された。

釜山市の年間の工事量は昨年度で約一〇〇億元(ウオン)、水道工事や、道路改良工事等、急ピッチで進んでいる。今年は政府の緊縮財政のあおりを受け、工事量も昨年の半分程に落ち込んでいるという話しであるが、それでも、各建設会社の機械に対する関心は高く、各社とも、出来るだけ早く、建設工事は機械化して行かねばならないという意慾が強く感じられた。

今回の釜山展示会は業者の方々に、このような、小型の建設機械によって、建設の機械化を大きく促進させ得たものと大いに意を強くした。

大邱市

釜山の展示会を好評のうちに終えた我々は、展示品を二台の小型トラックに積み込んで大邱へと出発した。本年六月、全線開通したばかりのソウル釜山間高速道路(施行には三笠MVC―200型バイブロコンパクターの五十台が活躍した)を北へ向って突走り、約四時間で大邱市へ到着した。大邱市には亜新機械の代理店、東洋機業社の黄社長さん以下社員の方々が夜遅く到着した我々を心良く迎えて下さった。

아신기계주식회사
동양기업사
(大邱市での展示会)

ちょうど大邱では地方紙「京郷新聞」社の主催で産業展示会が行なわれようとしていた。そこで大邱展示会は、早速この中の小間の一つを借用して、二十四・二十五日の二日間にわたって催された。

大邱市は人口約七十万、韓国第四の都市である。その規模は釜山市より小さいとは云え、賑やかな、活気に満ちた街は、やはり韓国有数の街の一つだという印象を与える。リンゴの産地として有名な大邱は、工業都市としてもその名が高く、街には機械工具関係の店が特に多いように感じられた。

バイブレーターについては、皆、良く知っており、又その必要性も良く認識している。得意先の要望により、作って見たが、どうしても使用に耐える物が出来ず、客先の満足を得られなかったという機械屋さんが、そのお客さんを連れて見え、早速、MVI―PE60型バイブレーターを注文していった事は、よくそれを現わしているように思われた。しかし、輾圧機械となると未だその認識は浅いようで、実演説明を通じて、理解して戴けた事は非常に有意義な展示会であったと思う。

(亜新機械大田代理店の朝陽機械商社にて、向って右より李社長、許社長、筆者)

大田市

先頃、亜新機械の代理店となった朝陽機械商社さんが、今回最後の展示会開催地大田市で活躍されている。許社長さんは、鋳物工場のある鉄工所も経営されており、大田市での展示会は、この鉄工所の敷地の中で行なわれた。大田の郊外にある工場の中での展示会へは、招待客だけに限られたため来場者はゆっくりと機械[illegible]見て廻り、我々の説明を充分納得して聞いて戴くことが出来た。道庁の道路局から、局長さんと重機係長さんが見えて、現在補修工事用として購入予定の振動ローラーに、インパクトローラー、及びタンピングランマーが納入されることに決ったのは嬉しかった。

(ソウル代理店三亜商社、向って右より社長婦人、亜新の李氏、筆者、三亜商社の社員さん)

ソウル市

さすがにソウルの建設業者は大きい。土木、建築の一級免許を持つ会社は全体で四七一社、この内道路、橋梁、索道、港湾などの特殊免許を持つ会社は五十二社ある。その内の二十社以上が十億の工事を行ない、六社が五〇億以上の工事をする。このような大手業者の中には自から商事部門を持って直輸入をしている所も多い。二日間のキャラバンで、各大手建設会社を訪問し、三笠製品のPRを行なったが、やはり大手はこの種の機械の必要性を良く認識しており、保有台数も多い。しかしここで一番問題となっているのは、スペアーパーツの補充であった。世界各国の機械が、その時々の異なるルートで購入されるために、一貫したパーツの供給が出来ず、まだまだ使える機械が、倉庫のすみに眠っているというケースが非常に多い。これが重機担当者の一番の悩みとなっているようだ。

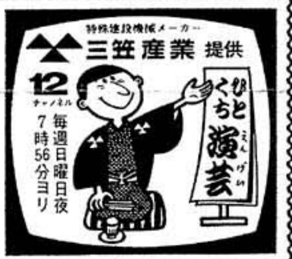
特に建設機械はアフターサービスを考慮して購入しなければならないということを身にしみて感じているようだった。今後は亜新機械のきめの細かいサービスによって、こうした問題も三笠製品に関する限り、なくなってゆくであろうと、各社から大いに期待された。

今回の特殊建設機械展示会は韓国で最初の催しであった。今後はこのような機会を出来るだけ数多く持ち又地方の各ユーザーを訪問して、より多くの方々に、このように有益な機械のある事を知って戴くよう努力すると亜新機械の李社長さんは話しておられた。

最後に十日間の展示会、キャラバンを通じて亜新機械(株)の李社長さん始め社員の方々、又釜山新協社の李社長さん、大邱東洋機業社の黄社長さん、大田朝陽機械商社の許社長さん社員の皆さんに一方ならぬお世話になりましたことを心より感謝申し上げます。

—藤村記—

コマーシャル撮影同行記


特殊建設機械メーカー
三笠産業 提供
12 チャンネル
ひとくち演芸
毎週日曜日夜 7時56分ヨリ

三年程前から東京の12チャンネルで我が社のコマーシャルを入れて「ひとくち演芸」と言う番組を放送していたが、今回バイブレーターとランマーのコマーシャルフィルムを新規に撮り直すことになったので、P・Sコンクリート(株)花水川作業所に向けてロケ隊のスタッフ一行と共に東京を出発した。この前にお目にかかった西岡所長さんは今日はお留守で遠藤主任さんが我々を迎えて下され、現場の手配を[illegible]ていただいた。タンピ[illegible]ランマーのコマーシャルの筋書きは、土方が三人で汗を流しながらタコで地ならしをしている所へ若い女の子が、タンピングランマーを運転して颯爽と登場し男達の目の前を通り過ぎる。その能率の良さに思わずタコを地面に放りなげて、タンピングランマーを見送ると言うシーン。スタッフが小道具のタコを建材屋に買いに行ったところ、「今はランマーと言ういい機械がありますよ」、と言われとんだ笑い話になった。始めはヘッピリ腰でタンピングランマーを運転していた女子タレントも、すぐに機械に慣れて、無事に午前中の撮影を終了した。午後からは、コンクリートバイブレーターのコマーシャルフィルムの撮影に入る。今度の筋書は土方が五人で竹の棒でコンクリートを突いている傍らで女の子が一人で錐振45型内部バイブレーターを使っていともスマートに作業をしているのを見て、竹の棒を捨てて女の子の使っているバイブレーターを皆で奪い合うというもので、女子タレントも錐振45型の強烈な手答えに、いささか困惑の態だったがそれもやがて使い馴れて十六時頃にはすべてを終了した。この撮影に御協力いただいたP・Sコンクリート(株)の皆さんに深く感謝いたします。

—森記—

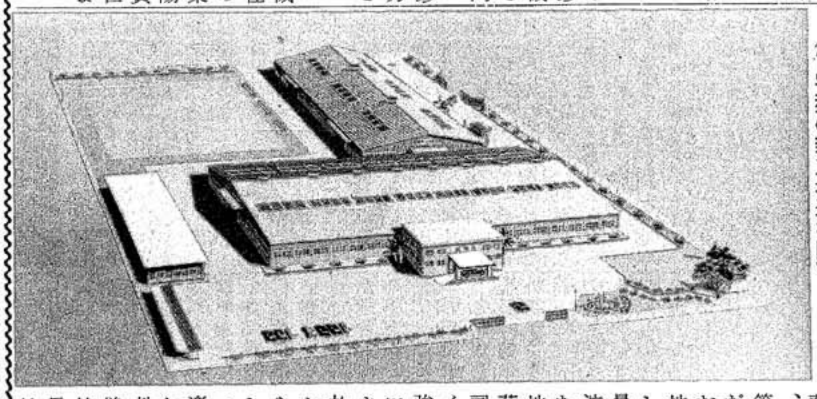
館林新工場 地鎮祭

昨年わが社の館林新工場用敷地として購入していた群馬県館林市近藤の工業団地にいよいよ館林工場を新築することになった。

施工者は、現在までわが社の工場を一手に担って各工場からも賞讃されている地元の石橋建設工業(株)に決定し、去る九月十六日正式に契約を締結したので、九月二十八日(月)、岩上開発協会理事長(館林市長)、浜野群馬銀行館林支店長、同じく外山池袋支店長、遠藤館林信用金庫理事長、遠藤前館林市長、笠友会幹事等、ごく内輪だけの方々をお招きして、地鎮祭を挙行した。当日は曇天で今にも泣き出しそうな空だったが地元の尾曳稲荷社田島老宮司のかくしゃくとした、力強い祝詞奏上により、たちまち、暗雲を払い清めたか、雨にもならず、広々とした敷地内いっぱいに越天楽の奏でる中を京谷社長の刈りそめの儀、続いて小林館林工場長、石橋建設社長の鍬入れの儀も済み、出席者の各代表の方々が厳かに玉串を奉奠され、これから始まる工事が無事故のうちに館林新工場として誕生することを祈りつつ終了した。式典に引き続き、小林館林工場長の開会の辞に始まり、京谷社長より次のような工場建物の内容が発表された。

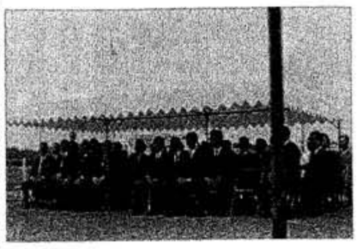
「将来の増築工事並びに工程管理を充分に検討した結果透視図のようなT字型工場になりました。いわゆる飛行機型で、事務所、組立工場、機械工場は約二、九〇〇㎡を南北一ヵ所に集め、そのセンターに事務所をおき、その後方に約一、三〇〇㎡の製品倉庫と別に約四〇〇㎡の食堂や、その他の建物を附属させました。工事は十二月初旬上棟式、明春、四月八日のわが社の創立記念日に落成式を挙げたいと思っております」との挨拶があり、続いて岩上市長をはじめ来賓者の方々より沢山の祝辞を頂戴し、外山群馬銀行池袋支店長の音頭により万才を三唱して祝宴に移った。宴が進むにつれ館林市の美妓連のお酌で酔も廻り、話しもはずみ時間の過ぐるのも忘れ、暗くなってから和気靄々の裡に散会した。どうか御来場の皆様におかれましては、今後共一層の御支援を賜りますよう切に御願い申し上げます。

—松下報—


(T字型の新工場透視図)

(京谷社長の刈りそめの儀)

(田島宮司の祝詞奏上と祭壇)


(祭壇前に並ばれた出席者)

(会場全景)

栃木県建設展

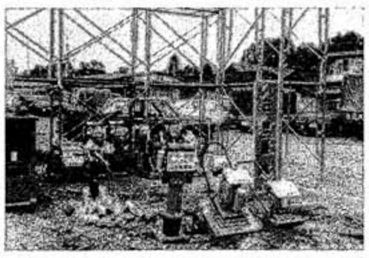
会期　自 七月十日　至 十三日
会場　宇都宮市営スポーツセンター
主催　栃木県
日本工業経済新聞社

昭和四十五年度国土建設週間の記念行事の一環として、栃木県と日本工業経済新聞社主催のもとに、栃木県建設展が北関東地方最大の都市、宇都宮市に於いて、華々しく開催された。

北関東地方は本年に入るや、東北高速道路の工事が着工され、特に栃木県に於いては、東北高速道路が宇都宮市郊外の鹿沼地区を通過し、現に鹿島建設、五洋建設、佐藤工業などの大手ユーザーが進出して、建設工事は今まさに最盛期に入らんとして大いに活況を呈している。

このような時に催された今回の展示会は、建設の機械化を促進する上に於て、まさに時宜を得たものであり、各出品社はもとより、来場のユーザーの方々も非常に真剣な眼差で見ておられ、これに対する御質問もかなり積極的であった。

我が社も中道機械産業(株)宇都宮営業所の小間をお借りして、油圧式コンクリートブレーカー、MTR80型タンピングランマー、MVC50型、100型コンパクター、を始めとし他に、標準型、錐振型、電直型、軽便型バイブレーター、MHC8型ハンドカッターなど、我が社のメイン製品を出品し、そのPRに大きな比重をかけてのぞんだ。



この栃木展には、岩沢建設、足利土建、渡辺建設、真岡コンクリートなど県内でも有数な大手ユーザーの方が多数御来場いただいて、日頃御愛用願っている三笠製品に就いての数々の御意見を直接承わり、かつ率直なる御批判を色々と伺うことの出来たことは、非常に有益であった。

我が三笠も今後共、ユーザーの皆様の御意見を充分尊重して、ゆるぎない伝統的な我が社の技術をもって、皆様の御期待にそうべく、その御期待にお応えしなければならないと痛感した。

梅雨の時期にもかかわらず、幸いにして天候に恵まれ、無事盛況裡に終了することが出来たのは幸いであった。

このようにして、本年の栃木県建設展が極めて成功裡に終了することの出来ましたのも、ひとえに、我々三笠に対して、小間を提供して戴いた中道機械産業(株)宇都宮営業所さんの御厚意によるところであり、ここに、紙上を借りて厚く御礼申し上げるとともに関係者の皆様に深く謝意を表します。

—永山報—

㈱不二金物 展示即売会

会期　自七月二十五日　至二十六日
会場　佐久市中込角万青果市場前

暑さ厳しい七月二十五日、二十六日の二日間、(株)不二金物さんの取扱商品に関する第三回展示会及び即売会が佐久市中込角万青果市場前の広場に於いて開催された。過去二回までの展示会は主に金物関係を展示したという事であるが、今回は建設機械をも加え、巾の広い展示会を計画したとの事であった。

折からの猛暑にもかかわらず、協賛出品メーカー約二十五社がそれぞれ新鋭機械を展示し、わが三笠も、バイブレーターから始まり、コンクリートカッター、インパクトローラー、バイブロコンパクターと、与えられたコマを狭しとばかり並列した。丁度、土曜日、日曜日と休日を入れての展示会だけに、連日多数ユーザーの方々が足を運んでくださった事は幸いであった。広い展示会場に各出品メーカーの実演機の音が鳴りひびく中を足を止めて見聞されるユーザーの方は、早速値段の交渉に入られたり、自から機械を手にされて、たちまち80型タンピングランマー数台が契約され出足は上々であった。

又展示会場の位置する佐久市は、年々発展の途上に有り、各販売店も大分力を入れているようであり、それだけ他社に先行しようとする気構えでもあっただけに展示会の意義も充分上がったものと思われた。展示会終了後、来年はもっと早い時期に開催したいと不二金物さんの全社員の御意向であった。私達も今後の御発展を大いに御期待申し上ぐると共に御支援をおしまないものである。末筆ながら連日の暑さの中を足を運んでくだされたユーザーの方々に御礼申し上げるとともに不二金物さんの今後益々の御発展をお祈り致します。

—徳永記—

線路近代化展（札幌）

会期　自 八月六日　至 七日
会場　札幌南局ラインマンセンター
主催　北海道電気通信局

八月六日、七日の二日間、遠く恵庭岳、札幌岳を望まれる藻岩山のふもとで、「通年施工、装備の導入と定着」というテーマの基に、第三回、線路近代化展示会が北海道電気通信局、線路工事近代化委員会の主催で行なわれた。メーカー四十八社が、約二五〇㎡の会場内に、工具、安全器具、計測器、線路、土木、土木車両と、コーナーが整然と並び、そこに弊社のコマが有った。土木車両のコーナーでは、短い北海道の夏を惜しむかの様に、連日、ランマー、カッター、ブルトーザー等が、囲りの静かさを打ち破って大きな音を立てていた。我が社は、MTR—80型ランマー、MVC—100型、50型—バイブロコンパクター、MHC—8型ハンドカッター、MOB—32型油圧式ブレーカーを出品し、特に自信をもって販売しているランマーの保証書を見て、「こんな小さな機械にも保証書を付けているのですか!」と驚ろく人が多かった。ブレーカーに至っては、油圧機構という着眼点に関心を寄せられ、札幌市役所水道課では、緊急用の掘削機に、ブレーカーを設置したい、とわざわざ来場されて、その仕様を細かくメモして行かれた。重さが、あと二、三キロ位い軽くなればもっと使い易いだろうとの声が多かった。又、ハンドカッターは、弊社の向いのコマに、パートナー等の外国製カッターが展示されていた為、その相違点を説明するには、好都合で[illegible]た。値段が安く、しかも、性能が良いということで、いずれの人もカタログに値段を書き込んでいた。この会場に、見学に来られた方は、通信局員が多く、将来の電々公社を担って立つ人々だけに、三笠製品の優秀性について、語り広まり、一般の需要にも結びつくことを祈念したい。入場者数約一〇〇〇名、成功のうちに終了し、閉会後、「ローヤルホテル」に於いて、懇談会が行なわれ、弊出張所から、佐潟所長が出席した。最後に何かと協力して頂いた、中道機械さん及び、協賛会社、北海通信産業さんに、厚く御礼を申し上げると共に展示会の最終目的である「明るく安全で誇りのもてる職場作り」に、メーカーとして今後とも奉仕の精神を忘れるべきでないことを痛感した。

—岩崎報—

馬場長太郎商店見本市

会期　自 九月二日　至 三日
会場　新潟県東三条市厚生福祉会館

新潟県東三条市厚生福祉会館に於いて昭和四十五年九月二日、三日、馬場長太郎商店主催の個人見本市が盛大に開催された。新潟県内はもとよりその名を関東一円にまで知られている程の古い歴史と長い間に築き上げた信用とが物語るこの第一回見本市の大盛況振りを目のあたりに見ることが出来た。初日は午前九時開場だというのに九時前から、もう熱心な方々が何人か入場されたためまだ準備中だった我々もあわてて製品をもう一度列べ代えたり矢継早やの質問にすっかりまごつかされてしまった。館内は殆ど刃物、金物類のメーカーさんでうまっており、なかなか華やかな雰囲気なのに対して外では建設機械関係のメーカーが力強く構えていた。

午前中だけで約四百人近くの新潟県内の問屋さんが入場され、新潟気象台開設以来の暑さのためか、それこそ汗びっしょりになって我々の展示した製品を見て廻られていた。

馬場長太郎商店の営業関係の方々もまだお若いのになかなかしっかりしておられ誰一人椅子に座っている姿を見なかったのには頭の下がる思いがした。

この日の入場者が約六百名というのを聞いて、約七十社近く来ていたメーカーの皆さん方もびっくりしてしまった。

二日目は朝からかなり強い雨に見舞われ、我々も早く雨の上がる事を祈りながら会場に向った。

この日は新潟県内とその他の地方の小売店の方と、ユーザーの方が見える事になっていたが、雨で出鼻を砕かれたのではないかと心配していたところ、午後になって雨が上がると午前中と合わせて約五百人近い方が見えた。ユーザーの方はまだあまりコンクリート関係の製品に対しては詳しい知識を持っておられないようだったがランマーなどは一度使ってみたいと云う方も少なからずおられたので嬉しく思った。

こうして二日間の全日定を無事終えて私の感じた事は初めて来た新潟県は人情味のある人が多く東京で殺伐として生きているのがなんだかとてもウソみたいに感じられた。

末筆ながらいろいろお力ぞえをしていただいて大変お世話になった馬場長太郎商店営業一課の渡辺課長さんはじめ、その他営業課の方々には、[illegible]ら厚くお礼申し上げます[illegible]又馬場商店さんのこれからのより一層の御発展をお祈りして筆をおきます。

—松原報—

㈱東日産業祭

会期　自九月六日　至 九日

(株)東日さんでは、毎年恒例に、産業祭及び展示即売会を催され、本年もまた残暑の厳しい中での展示会となったが、旧来の扱い商品に、特に今回は、建設機構を積極的に販売する体制を整えられ、今回始めて、三笠製品として、MTR80型タンピングランマー、MHC8型ハンドカッターの他各種のバイブレーターを、展示実演して、来場者の人気を呼んだ。特に保証書付のMTR80型タンピングランマーは、建築、左官関係の方々に、従来のジャンプランマーに、変わる物として、多くの関心を集めた。

東日さんは、千葉県卸売センター（八日会）メンバーの、有力商社であるだけに、取扱い機種も、電動工具を始め、木工機械、工具関係等、巾広く扱かわれて、積極果敢に商売をしておられるだけあって、建築、左官関係の各取引先から深く信頼されておられ、事実その客層も急速に広がり、業績も、年々大きく伸びつつあるようである。これは宮森社長さん以下社員の皆様の日頃のご努力の賜ものと、深く敬意を表します。

三日間にわたる、産業祭もまことに盛大裡に、終了し、多数のご来場を戴いた参観者並に東日さんの皆様のご協力に対し、厚くお礼申し上ぐると同時に、貴社の益々のご発展と、今後のご健闘をお祈りしてやみません。

—松沢報—

線路近代化展（東北）

会期　青森会場　自九月二十五日　至二十六日
会場　青森電話局ラインマンセンター
会期　山形会場　自九月二十八日　至二十九日
会場　山形県体育館
主催　東北電気通信局

『安全と省力化』のテーマは電々公社が、終始一貫つらぬき通してきた柱であり、又、尚一層その徹底を計ろうとする姿勢は強いものである。

このテーマに基づいて行なわれてきた展示会も、毎回、新製品の発表や、施工面でのアイディア提供の場として、活況を呈してきた。昨年の仙台市に於ける全国大会に引き続き、本年は青森市、山形市の二会場にて東北六県の電々公社員や、関係業者を招いて、盛大に催された。青森、山形両会場共、連日好天に恵まれ、一日平均五~七百名の参観者を得て、あちこちの小間内で熱心な質疑応答が繰り返され、主催者側の意図と、出品メーカーの前向きの姿勢とが、渾然融合して、和気靄々の中にも、きびしい光景が繰り広げられていた。

我が三笠製品の出品物の中では、MHC—8型ハンドコンクリートカッターが注目され、質問も、これ一点に集中した感じで、今後電設関係の工事に大いに役立てるものと確信するものである。又、今回出品出来なかったが、MCD—3型コンクリートカッターに対する問い合わせや、現在使用中のMCD3型に対する疑問点等多く聞かれ、次回からの出品を期待された。

東北各県から御参集下され、貴重な御意見を賜り、且つ、多大なるご支援をいただきました東北電気通信局関係各位に謝意を表すると共に、『安全と省力化』の追求に邁進されます事を念ずるものであります。

（青森会場）

（山形会場）

最後に今回ひとかたならぬご尽力を賜わりました親和機械工業(株)殿に対し、深甚なる謝意を表します。

—今野報—

◇ ◇ ◇ ◇

箱根ブラックバス釣大会

八月十二日、社長招待の恒例のバス釣大会は、本年も第一陣に次いで第二陣が勇躍車を連ねて本社を出発、夕刻芦の湖畔松坂屋に投宿した。

翌朝未明四時半起床のところ大張り切りの松下課長は、四時に全員を起こしてしまい、普段なら文句の一つも出るところだが、そこは好きな者の集まりだけに、早速、仕掛け作りに文句一つ出ない。

ブラックバスは初めての人達が多いので、仕掛け作りの講釈が一角で始まるかと思えば、一方では早く自分のも作ってくれと催促するやら賑やかな出漁準備のうちに、五時十分、A船（津田船頭）、B船（藤村船頭）に分乗し、好ポイントを目指して出漁した。

芦の湖の夏の朝は、下界に比べて肌寒いくらいで湖の周囲の緑もすがすがしく、まるで別天地である。

丁度、一週間前にも第一陣が出漁しているが、さざ波一つ立たないあまりに好天すぎた為か全くの不漁で惨憺たるものだったと聞かされているし又、船頭さんも今度の第二陣と同じ船頭さんでもあるので、なんとかして釣ってもらおうと、我々よりも船頭さんが大張り切りだった。「来た」、「やっぱり社長か」『課長のも来てるぞ」

そろそろ喰い始めたらしい。しかし型は良くなく、10cmから13cmの小物ばかりで、船頭さんの話しでは、湖岸がここ二年程でひどくよごれ、大物は浅場に寄りつかなくなっていると云うことである。

なるほど引きだけはたえずあるが、小物すぎて餌（藻エビ）をつつくのがやっとと云うところらしい。

藤村船頭さん等は何んとか大物の一枚だけでも、上げて貰らおうと、あっちの山蔭、こちらの岩場と苦心のポイント歩きをしてくれるが、何んとも小物ばかり、釣る方は小物でもよいから何んとか上げようと苦心しているが、餌つつきが上手で、藻エビを取られる方が多く、結局A船ではどんな風の吹きまわしか、自他共にまるっきり素人の筈の小金井係長が五匹で竿頭となり、B船では炭主任がやはり五匹で竿頭となり、両船で十八匹とまあまあの成果を上げた次第である。

（第一陣B船組の連中）

—浅野報—

三笠海の家終る

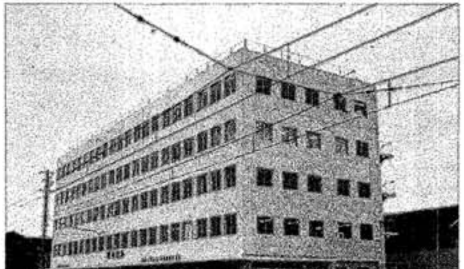
殊の外長い梅雨になやまされ、又秋の到来が例年になく早いとの予報に、短かい夏のシーズンを最大限に有意義に利用しなければとの息込みで、開設された葉山森戸海岸のかぎ家旅館内三笠海の家も、途中招かざる客台風の襲来があったにもかかわらず、予想以上の成果をおさめて有効裡に八月末日をもって無事終了した。

海の家には、米を始め味噌、調味料ありで食事、その他、宿泊設備が総て完備されていて、しかも海まで庭つたいに一分もかからず行かれる好条件に恵まれたためか、特に家族ぐるみでの利用者が俄然多く、独身社員の単独利用には、かなりの制限を受けたので多少の不満も出る始末であった。殊に毎週々末には各室共に定員を大きくオーバーするという利用者で室割りに頭を悩まし、俄かに寝具を追加したりして、大童であった。満員の各室は、寝るにも頭と足をぶっつけ合った雑魚寝同様の混雑ぶりを呈したこともあった。それでも海の家常連の若い男女社員達は、もうこれ以上焼いても黒くならないまでにまっ黒く、たくましく日焼けして、その姿はわが社の誇る社歌〝牢固の誓い不屈の精神〟に何か通うものがうかがわれて頼母しい限りであった。

—炭報—

田中商事（株）新社屋 落成

大分市生石町777



（田中社長と本社新築社屋）

九州で最も古くから三笠製品の代理店として御活躍戴いている田中商事（株）（社長田中豊吉氏）では、東洋一を誇る新日鉄大分製鉄所及び工業コンビナート建設途上の都市大分市生石町七七七（国道一〇号線沿い）に、地元大手業者（株）佐伯建設の施工により鉄筋コンクリート造地上五階（建築延面積三三二一余平方米）の田中ビルを建設中の処、この程見事に落成され八月八日その落成披露を大分県知事を始め取扱メーカー納入先等四百余名を招き盛大に挙行された。東京の三笠産業（株）より京谷専務、大阪三笠建機より小野常務、同社九州出張所から岡田所長が御祝いに参上した。

落成式は田中豊吉社長の『長い年月にわたる地元のご厚意に感謝すると共に、これからも地域社会に密着した活動を続けて皆様のご期待におむくいしたい』との挨拶に始まり、県知事有志メーカー代表の祝詞があり、豊後水道及び市内を一眺に見わたせる五階式場にて盛大なる落成披露宴が繰りひろげられた。

当ビルは一階から五階までが事務室にあてられ、田中商事を初め傍系会社臼杵鉄工所、大分プリンス自動車等数社の入居が予定されているとのことである。勿論一階ショールームには三笠製品も陳列されることになっており、やがては道行く人々の目をうばい、PRの実をあげる事になるでしょう。

大分市は前に述べた如く鶴崎臨海地帯に東洋一の工業コンビナートが建設され日本工業力の推進力になろうとしている。

この重要なる地に本拠を持っておられる田中商事（株）さんに心から御祝詞を申し述べると共に益々販路を拡張されて積極果敢なる業務を展開される事をご期待申し上げます。

末筆ながら社長さんを始め社員の皆様方の御健勝と御社の御発展を心から御祈り申し上げます。－岡田報－

三栄林業㈱ 新社屋落成

山梨県中巨摩郡竜王町富竹新田一九八九－三

（落成した新社屋と三枝社長）

去る八月六日、三栄林業機械株式会社（社長三枝益良氏）では、山梨県中巨摩郡竜王町富竹新田一九八九－三番地に、かねてより建設中であった本社々屋が見事に完成された。この日は恰も同社の前途を祝福するかの如く雲一つない真夏の太陽のもとに、取引先メーカーをはじめ関係者多数を招かれて盛大な竣工式が挙行された。

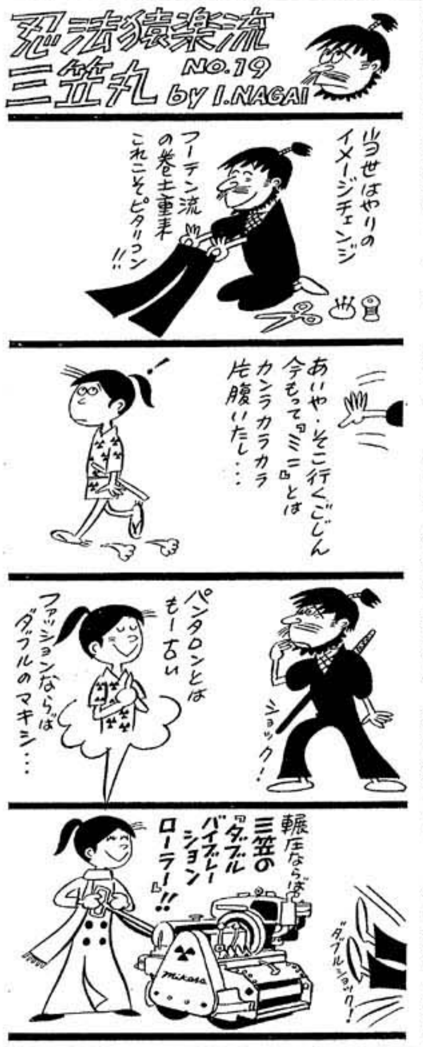
三栄さんの位置する山梨県は四方を山々に囲まれ、その県の財源も葡萄や桃、さらには名勝の昇仙峡の紅葉や富士五湖を訪れる観光客を楽しませてくれるという立地条件のもとに、何かのんびりとしたムードを持っているが、反面市の内側を流れる笛吹川、釜無川が以前大洪水を起こした時以来、護岸工事をはじめ各種の土木建設工事が急速に発展して、年々計上される県の建設関係の予算も、今年度は四三三億ということで、凡そ県の意欲のほどが伺える。このような時期に直面し、さらに同社の発展を期して、建設機械にたずさわる多数業者の要望により、三栄林業さんの新社屋の落成を見たことは充分これらの期待に応えられたものとして、我々メーカーとしても大いに御信頼申し上げるところである。

本社々屋の建設にあたっては、従来国道二十号線沿いに位置していたが、同社の発展と極度の交通ラッシュにともない広範囲にわたる活動に兎角支障をきたすということから、新たに前記場所に新築され、将来に向って飛躍的な発展を期しておられるわけである。

新社屋は県道、甲府－櫛形線沿いで近くに甲府バイパスが新設される予定であり、立地条件としても本当に恵まれた環境に有り、社長さんをはじめ各社員の方々も、益々意欲的に活動が出来るので、大いに将来を期待されている。

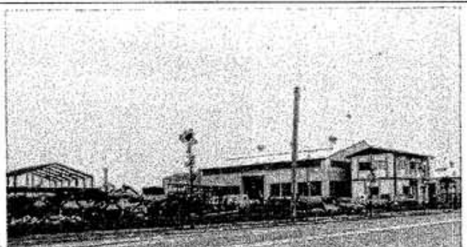
新社屋の敷地は二五〇〇平方メートルに建棟二三一平方メートルと倉庫、修理工場併せて敷地いっぱいにとり、今後の商売はアフターサービスより生まれるということをモットーに、それだけ修理工場を大きくとったとのことである。このような意欲に燃えている同社に対する我々メーカーの期待も大きく我々も絶大なる協力を惜しまないものである。今後は本社を拠点としていよいよ優位な販売網を拡げられ、益々御活躍御発展せられんことをお祈り申し上げてやみません。

―大沢報―


忍法猿楽流
三笠丸
NO.19
by I.NAGAI
当世はやりのイメージチェンジ
フーテン流の巻土重来これこそピタリコン!!
あいや・そこ行くごじん 今もって『ミニ』とはカンラカラカラ片腹いたし・・・
ショック!
パンタロンとはもー古い
ファッションならばダブルのマキシ・・・
転圧ならば 三笠の『ダブルバイブレーションローラー』!!
mikasa
ダブルショック!

常盤工業㈱ 創立十周年と新社屋落成

横浜市中区かもめ町二二



（源社長と本社新築社屋）

常盤工業株式会社（社長源藤作氏）では、このほど横浜市中区かもめ町二二番地に本社々屋と工場が完成、去る六月二十八日、横浜東急ホテルに取扱メーカー、納入先など関係者二百余名を招き、創立十周年式典並びに新社屋工場落成祝賀披露の記念パーティーが盛大に挙行された。

式は押見氏の司会により、源社長の感謝をこめたあいさつに次いで株主を代表して寿建設工業（株）水野社長の喜びのあいさつがあった。続いて横浜市会議員成田孝治氏と神奈川県議会議員幸山よしお氏から源社長の人徳と盛業をたたえる祝辞と商社代表として湯浅金物（株）石川部長やお得意先代表星名建設（株）星科社長らの躍進一途の常盤工業と源社長と一身同体で精励する社員をたたえ、益々発展が約束されるとの祝辞が次々と述べられ、万来の拍手で式次第を終り、保土ヶ谷[illegible]ず谷会長の乾杯で祝杯を汲み交し、和やかな一刻を過ごし万才三唱で盛況裡に幕を閉じた。

新社屋及び工場は本牧中小企業団地にあって敷地一七〇〇平方メートルに二階建て事務所と鉄骨造り工場で特に工場は四九五平方メートルと大きくとり持運びや修理に対して合理化されている。

同社は神奈川県内の建設機械商社として名実ともにトップにランクされ、建設機械の販売・リース・修理の三部制で誠実さをモットーとするサービス商法で建設業界から重用されている。

源社長の経営方針は「社内にあっては"和"に徹し、社外へは今まで後援して戴いた御恩返しをするつもりでサービスに努める」といつも作業服で陣頭指揮をとっておられる。

横浜市は、かつて戦争により焦土と化し、その中心部を永年進駐軍用地として使用されていたため、その復興も他都市に比べて立ちおくれていたが、現在の横浜は、単なる貿易港というだけでなく、商工都市として、実に素晴らしい発展振りを示している。こうした要素に支えられた同社は、今後ますます社業の隆盛が見込まれ建設業界の機動力確保に貢献し、国土開発の支柱として大成されんことを我々メーカーはご期待申し上げると共に、出来得る限りのご協力を惜しまないものである。

末筆ながら常盤工業さんの今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

―大沢報―

協和商会 諏訪営業所落成

長野県諏訪市福島字曾根田四七九一

（落成した諏訪営業所と小島所長）

協和商会（本社東京都台東区上野七丁目十二の十三社長村上保治氏）ではこの度業務の進展に対処し、諏訪営業所（諏訪市福島字曾根田四七九一　所長小島秋雄氏）を諏訪湖畔にある第一精密工業[illegible]の隣接地に新築移転さ[illegible]月二十四日、目出度く落成式を挙行された。式は整備工場内に設けられた式場で諏訪神社の神官の祭事から始まり、地元建設業有志を始め、商社・メーカー等関係者凡そ一五〇名を招いて行なわれた。落成式終了後倉庫内に於いて祝賀パーティーが開かれ、村上社長の「昭和二十七年に長野市に支店を開設してから十八年の間に松本、諏訪にと営業所を設けて、東西経済圏の中心地で盛大な落成式の出来る事は御列席の皆様のお蔭」と御挨拶され、続いて、地元代表は「経済発展には機械力は欠くことの出来ないものであり、機械活用の原動力となる協和商会の御発展は心強い限りである」と、また商社代表は「協和商会のモットーである（積極的な政策・堅実なる経営）が今日の諏訪営業所の落成式をむかえられた」と、またメーカー代表は「愛されるアフターサービスを旗印に、協和さんが諏訪市に諏訪営業所と整備工場を新築落成されたことはお使いになるユーザーさん・作るメーカー双方から、より一層の信頼を得ることと確信する」との祝辞がつぎつぎと述べられた。

頃合いを見てこの地の由緒ある諏訪太鼓が奏でられ、その豪壮な音調は前途洋々たる協和商会の発展を祝うが如く、会場は正に熱気にあふれていた。

当社からは星野営業部次長が出席して御祝いの言葉をお伝えして、諏訪湖しゅんせつ工事、中央道建設工事と大工事の伸展が予想される同地にあって、今後益々盛大に御発展されることを御祈り申し上げた。

新営業所内容

敷地面積	三、三〇〇㎡
事務所建物	延二三一㎡
整備工場及部品庫	三三八㎡
倉庫	五〇五㎡
会議室（事務所二階）	四九㎡
社員寮	八三㎡

―星野報―

三笠建設機械 中部出張所開設

名古屋市中村区則武町3―60

（三笠建機中部出張所と村川所長）

三笠産業の西部地区総発売元である三笠建設機械（株）に於いては、かねてより計画中であった中部出張所をこの程、名古屋市中村区則武町三丁目六〇番地、国鉄名古屋駅新幹線下車口より徒歩約五分の大変便利な場所に六月二十一日開設された。初代所長として村川弘巳業務係長が着任し、即日業務を開始した。名古屋市は今でこそ横浜市に次ぐ人口ではあるが、経済面では東京、大阪に次いで現在文字通り日本の中心圏として重きをなしている。この地に今まで我が三笠の出先機関の無かったことがすでに時期遅れの感もしないではないが、初代村川所長以下全所員がその目標とする愛される三笠になること、そして行動力に富む徹底したPRを行なう事により、きめの細かいサービスをモットーとして発足した。村川所長は永年中部地区の販売を担当され、同地区の各代理店の皆さんはじめユーザーの方々からもその誠実な人柄をかわれており、中部全域の事情にも精通しておられるので、所長としては最適任者であり、それに逸材の生熊氏、青山氏の両所員を配した陣容は今のところ四～五名の人員構成ではあるが、おそらく中部出張所がその総力を発揮する暁には三笠製品販売拡張の拠点としてめざましい発展振りを示されることと思います。切に御健闘をお祈りしてやみません。

―鯉沼報―

テレックス完備のお知らせ

この度弊社札幌出張所にテレックスが開通しましたからせいぜい御利用の程お願い致します。
尚札幌出張所の電話も増設されました。

札幌出張所テレックス番号　九三三－六九〇番
本社テレックス番号　二二二－四六〇七番
館林工場テレックス番号　三、四七三－三三九番
春日部工場テレックス番号　二、九二二－一六六番
札幌出張所電話
市外〇一一（二五一）二八九〇・〇九一三番

三笠本社幹部社員昇格

六月一日付を以て
取締役経理部次長　平戸　昭次
取締役経理部長に昇格

六月一日付を以て
経理部資材課長　川口　孝行
経理部次長（資材担当）に昇格
七月十八日の定時株主総会の決議により**取締役**に就任

三笠産業俳句

穂波選

茅ヶ崎　裕　百合子
苺の朱子なき不安がふとよぎる

東京　中村ふみと
愚痴多き妻も初老や梅雨に入る

横浜　加藤　京女
椽先にまどろむ猫や芥子の昼

横浜　神吉　煙村
梅雨寒や冷蔵庫の白い肌

東京　山田しげの
雲仙の朝を鯛ひとしきり

東京　森　昭男
落日は芒の果に分け入りぬ

横浜　村松みね代
昼顔にブルドーザーの追いせまる

茅ヶ崎　川口きよい
制服の詰襟かたし青き踏む
転勤の親子を隔つ青嵐

茅ヶ崎　裕　司郎
夏手套（てとう）着けてガイドにたちもどる
餌台の仔雀を見て飽かず
出しぬけの鵙のおさけびナセル逝く

茅ヶ崎　裕　百合子
ちちははの世がそこにあり土用干

（評）家中所狭しとばかりひろげた土用干の中に父母の遺品を眺めて、ふと在りし日の頃を思い出し、恰も父や母の世代がそこにあるかのようななつかしさを感じたのであろう。

次号俳句募集

当季雑詠　1人　5句以内
用　紙　ハガキ又は便箋縦書
締　切　12月20日
社外からの投稿を歓迎する
評句のものには薄謝を呈す